

らが学修成果を把握し、次の学びを主体的にデザイン」できる行動様式に変容させることを目指して、入学から卒業後まで質保証の伴った総合的な大学教育改革の取組みと展望を紹介いただきます。

16:40 関連情報の提供

「私立大学情報環境白書(2018年度版)」と「平成30年度教育への情報化投資の実態」などを予定

17:00 閉会

## (2) 実施結果

69大学3短期大学から117名の参加があった。以下に、実施結果の概要を報告する。

- ① 「教育の質の保証と情報公表」として、文部科学省から教学マネジメント確立のための「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」について、学修成果の把握・可視化や情報公表などについて必要性を確認した。また、全国的な「学生調査」による教育の可視化について、目的・内容・方法等が説明された。
- ② 「社会に通用する学修成果の獲得と卒業時の質保証の取組と展望」として、卒業段階での「ディプロマサプリメント」、各学年次での「プレ・ディプロマサプリメント」の活用、eポートフォリオの活用を通じて、学修習熟度を学生と教職員が共有してPDCAサイクルで成長を促していく取組みが紹介された。
- ③ 「学修成果の可視化と学生IRシステムによる教育改善活動の取組と展望」として、「学士力・就業力」の可視化、学修成果の検証、PDCAサイクルの構築について「学生にフォーカスし一貫して見通すIRシステム」をポートフォリオや学修・生活行動チェックシートなどの活用により、入学から卒業までの学生の主体的な学びをデザインするエンロールマネジメントの取組みが紹介された。
- ④ 参加者のアンケートでは、「一步深く入り込んだ内容で勉強になった」、「教育の質保証システム普及に関する取組みに期待する」などの感想が寄せられた。

## [他3] 研究会等のビデオ・オンデマンド配信

大学教員のファカルティ・ディベロップメント、職員のスタッフ・ディベロップメントの貴重な資料として、教育方法及び教材開発、教育・学修支援の情報通信技術活用などの講演、事例紹介の著作権処理済みコンテンツをデジタルアーカイブしてデータベース化し、希望する会員に有料でオンデマンド配信している。

コンテンツは、平成29年度129件、平成30年度122件、2019年度(令和元年度)152件の合計403件となっている。

2019年度分の配信分配金は、正会員の規模に応じて33,000円から55,000円、賛助会員は一律44,000円となっているが、2年目は10分の1(平成30年度)、3年目のコンテンツ(平成29年度以降)はすべて無料としている。利用人数は無制限で参加申し込みはWebサイトで行っている。